週刊デイリー高校野球

内外ゴム「テクニカルピッチ軟式球」

# ハイテク球で軟式野球もレベルUP

## 高性能センサーで投球データ解析

### 〝硬式有利〟今は昔

長い間、野球界では「硬式出身の方が有利」という風潮があった。現に、プロ野球や高校野球で活躍する選手には、ボーイズやリトルシニアの硬式出身の選手が多い。しかしここ数年、佐々木朗のような中学まで軟式野球出身の選手が注目されだし、改めて軟式野球の必要性が問われるようになってきた。そんな軟式野球界のレベルを底上しようと開発されたのが、内外ゴム株式会社が昨年12月に発売した「テクニカルピッチ軟式球」だ。

「テクニカルピッチ軟式球」は、中心部に超高性能の9軸センサーが内蔵されており、そのボールを投げることで「球速」、「球種」、「回転数」、「回転軸」、「変化量」、「腕の振りの強さ」が自動計測できるという優れもの。これをスマートフォンの専用のアプリに連動することで、1球ごとに投球データが転送され、簡単にデータの解析や管理が可能になる。

この製品の開発に踏み切った理由として、同社の営業係長である安樂さんは「硬式ではデータが見られるのが当たり前になってきていますが、軟式はまだ『感覚』でしか計ることができなかった。各方面から軟式にも欲しいという声もあり、レベルを上げるお手伝いができるなら」と、多数の要望に応える形でこのボールが誕生したことを明かした。

実際に使用している人たちからの評価も高い。投手育成のために取り入れたという兵庫・伊丹市立松崎中の西本大和監督は、「見た目のスピードだけじゃなく回転数などが見られることで、一人一人の個性を生かす練習ができるようになった」と良さを実感している。また「データを見て選手と自分が互いに納得することで、理不尽な指導をなくすことができる。思っていた以上の発見がありました」と、指導者として新たに学ぶこともあったという。

高校でも野球を続ける予定の同校のエース・木崎琉星投手（3年）は「球速以外にも具体的な目標を設定して、自分の特性を生かせるようにしていきたい」と、今後投手として成長するために、得たデータを役立てたいと考えている。

最近では、昨年「高校BIG4」と呼ばれた奥川（ヤクルト）や佐々木朗（ロッテ）が軟式出身だったことが取り上げられるなど、〝硬式有利〟と言われてきた小、中学時代の野球への取り組みも見直されている。実際、硬式球に比べ、軟式球は故障のリスクが軽減されるというメリットもあるが、安樂さんはこの〝ハイテク軟式球〟の使用で「データが可視化できることで、ケガの抑制や体罰などの指導の問題が減ってほしい。そして、そこからトップレベルの選手が出てきてくれたらうれしいです」と、さらなる故障防止やレベルアップを期待している。

野球人口が減少している今だからこそ、プレーする選択の幅を広げるためにも、硬式だけでなく、軟式のレベルも上げていく必要がある。たくさんの思いが詰まった「テクニカルピッチ軟式球」がさらに普及することで、軟式出身の高校球児、そして、その先のプロ野球選手が増えていくかもしれない。

（永井優花）

### 故障防止にも

大船渡高からロッテに入団した佐々木朗

19年夏の甲子園で準優勝したヤクルト・奥川









※本体価格　「テクニカルピッチ軟式M号球」2750円（税別）、「テクニカルピッチ軟式J号球」2750円（税別）

## 木島医師から高校球児へアドバイス

# 焦らず基礎の動きを取り戻して

### 「代替大会」への準備

今月に入って休校していた高校が全国的に再開され、部活動も本格的に動き出した。今夏は各都道府県で独自大会があり、センバツ出場校による甲子園での交流試合も開催。約3カ月のブランクがある中、試合へ向けてどう準備すべきか。昨年の侍ジャパン高校代表をサポートした富士整形外科病院の木島丈博医師（39）に聞いた。

#### ブランク埋める

スポーツドクターとして球児と接する機会が多い木島医師は、この2カ月間で選手の〝本音〟を聞くことも少なくなかった。春夏の甲子園中止に、当事者の反応はさまざま。技術の差、目標の違いでそれぞれの事情を抱えていた。

「トップレベルの子だと、切り替えて『プロを目指しるのは十分に練習ができなかったブランクをどう埋めるかという部分。加えて、暑さ対策にも気をつけないといけない。

「自主トレの程度も個人差が表れる」と木島医師は注意点を掲げた。活動停止期間中に練習メニューを配られたチームもあれば、個人に任されたチームもあるはずだ。周囲の環境によっては、基礎トレーニングすら満足にできないこともしばしば。いきなり全員が同じことをこなすのはケガにつながる。

選手の安全のため、「全体練習再開の時点で個々の状態の調査をしてほしい」と指導者陣にはきめ細かいケアを願った。どれだけ調整してこられたかという観点で組み分けし、グループ別で練習することが必要だ。イメージを挙げるとするなら、12～2月まで対外試合ができなくなる冬場の練習。「基礎的なところからやって、当たり前のプレーを当たり前に」。約1カ月で着実に試合のできる体へと持っていくのが理想だと助言する。

誰も経験したことのない状況で、準備が手探りになるのは否めない。厳しい条件だからこそ、いっそう〝選手ファースト〟の思いが募る。「いつも以上に野球を楽しむ、精いっぱいやってくれるところを見届けたい」とエールを送った。

（佐藤敬久）

キャッチボールをする明石商ナイン（撮影・佐々木彰尚）

**木島　丈博**（きじま・たけひろ）1980年12月16日生まれ、39歳。福島県郡山市出身。中学まで野球を続けていたが、右肘の軟骨障害を発症して競技を断念。スポーツドクターを志すきっかけとなる。秋田大では準硬式野球部に所属し、復帰。2015年4月から富士整形外科病院で野球・スポーツ外来を担当。19年のU18W杯では整形外科医として初めて侍ジャパン高校代表に帯同した。

WBSWBO

＜紙面編集＞篠田　諭



眼が疲れて奥までツライ。
寝ても取れない。
肩まで来た。
「眼」のための
キューピーコーワiプラス
興和株式會社　東京都中央区日本橋本町三丁目4-14
本製品のお問合せ：興和（株）お客様相談センター（Tel.03-3279-7755 受付時間 9:00~17:00 土・日・祝日は除く）キューピーコーワ 検索
●効能／眼精疲労・肩こりの症状緩和
●用法／成人（15歳以上）1回2～3錠、1日1回服用する。
第3類医薬品
OTC医薬品
セルフメディケーション税控除対象
QE-006